

# 【サマリー】第 19 回 BIZEN 活動発信会

日時: 2024 年 11 月 28 日

場所: 岡山大学病院 BIZEN 拠点(およびオンライン)

テーマ: 海外展開をこれからどうするか

出席者:

- BIZEN 仙石
- 株式会社キャンパスクリエイト 近藤氏
- 岡山大学 内田先生
- 他、参加企業およびオンライン参加者

## 1. 開会挨拶(BIZEN 仙石)

- 第 19 回 BIZEN 活動発信会の開始を宣言。
- 今回のテーマは「海外展開」。
- タイトル案はスタッフによる英語案「LET'S SPREAD OUR WINGS TO THE OVERSEAS」。
- 海外展開の具体的な支援を検討する回と位置付け。

### プログラム概要

1. キャンパスクリエイトによる海外展開支援活動の紹介
2. 岡山大学 内田先生による今後の取り組み紹介
3. 海外展開の課題と方向性についてディスカッション

## 2. 講演①: キャンパスクリエイト 近藤氏

「産学連携の場を国際競争力へ: 日本と ASEAN を結ぶ双方向型イノベーションハブへの挑戦」

### (1) 自己紹介

- 前職は海外顧客向けに音響 OEM 営業・製品開発 PM を担当。
- 2021 年よりキャンパスクリエイトに入社。
- 現在は大学研究シーズ探索、企業の新規事業開発支援、産学連携プロジェクトマネジメントなどを担当。

## (2) キャンパスクリエイトの会社概要

- ・ 東京・調布(電気通信大学内)に拠点。
- ・ 広域 TLO として全国 80 以上の大学・研究機関と連携。
- ・ ニーズ起点で企業課題と大学研究をマッチングし、プロジェクト化～出口まで伴走。

## (3) 产学連携の特徴

- ・ シーズ主導ではなく「企業の課題起点」で最適な研究者・技術を探索。
- ・ 共同研究の進捗管理、実証フィールドの確保、外部資金獲得支援など出口まで継続支援。
- ・ テーマ創出段階からアカデミアとのアイデア会議も実施。

## (4) スタートアップ/自治体/中小企業支援

- ・ 大学発スタートアップ支援(東京都事業などのコーディネーター)。
- ・ 港区産業振興センターの指定管理でスタートアップインキュベーションを運営。
- ・ 自治体向けセミナー運営や支援も実施。

## (5) グローバル展開の取り組み

### 中国

- ・ 深センに子会社(2007 年設立)。上海にもセンター。
- ・ 日本企業の現地進出支援、中国スタートアップの日本展開支援。
- ・ 蘇州中日共同イノベーションセンターの運営支援。

### 国際的連携例

- ・ ドイツ科学イノベーションフォーラムとの交流。
- ・ 海外企業の技術を日本産業界に紹介するイベントを企画。

### シンガポール(重点)

- ・ 2024 年: 日・星スタートアップのオンラインマッチングイベントを開催。
- ・ 2025 年: 大学発ベンチャー向けハンズオン展開プログラムを初実施。

## (6)シンガポール展開プログラムの詳細

**対象:**ヘルスケア・医療機器分野の大学発スタートアップ

**内容:**

- 事前のオンライン商談
- SWITCH(大型展示会)時期に4日間の現地訪問
- 医療クラスター(SGHなど)でのピッチ
- コミュニティ病院、クリニック、リハビリセンター訪問(デモ実施)
- 大学研究者・オピニオンリーダーとの面談

**成果:**22件の個別商談、複数案件が共同研究・PoCへ進展中

**評価されたポイント**

- 泥臭いアポ取り(メール、紹介を駆使)
- 商談後の「次のステップ」の整理・同席支援
- 相手関心に合わせた提案編集力

## (7)シンガポール医療エコシステム(調査結果)

- 医療機器市場は年6~9%成長。
- 400社以上のスタートアップ、メガテック企業が集積。
- 政府主導の投資・制度整備が活発。
- 薬事(HSA)がASEAN各国のリファレンスとして機能し、日本の認証も有用。
- 高齢化対応として予防・在宅ケア・AI臨床支援が重点領域。

## (8)海外キーパーソンからのヒアリング(日本の評価と課題)

### ●日本市場の魅力

- 高齢化により介護・ヘルスケアのニーズが豊富
- 実証フィールド(病院・介護施設)が多い
- 信頼性・技術レベルが高い
- 均質な臨床データが豊富

### ●課題

- 大学側の窓口が分かりにくい
- 意思決定が遅く不透明
- 契約プロセスが官僚的
- 信頼関係構築に時間がかかる
- TR(トランスレーショナルリサーチ)の実行力不足

---

## (9) 今後の構想

- 日本(備前)と ASEAN のイノベーション拠点を双方向につなぐ
- 日本シーズの海外実証、ASEAN 技術の日本実証
- スモールスタートの検証プログラムを継続拡大
- 来年 3 月に第 2 弾のシンガポールプログラムを計画
- マレーシア、タイなどへネットワーク展開

---

## 質疑応答

Q: アジア展開における地政学リスクへの対応は?

A(近藤氏):

- 外為法・安全管理など注視しつつ、過剰に回避して挑戦機会を失うのはもったいない。
- 個別精査し、契約含め管理体制を整えることで対応。

ファシリテータ補足:

- ビジネスにはリスクがつきもの。
- 地方での事業ですら突発リスクはあるため、都度の対応が現実的。

---

## 3. 講演②: 岡山大学 内田先生

「岡山大学病院としての海外展開と今後の取り組み」

### (1) 部門紹介

- 医療機器開発支援部門の責任者。
- 病院内の橋渡し研究部門と連携し、臨床研究・再生医療・PM・薬事・知財等の専門家が横断的に支援。

---

## (2) BIZEN の概要

- ・ 産学官連携により地域産業を中心にイノベーションを生むプラットフォーム。
- ・ 貸しラボ、コワーキングスペース、伴走支援、ニーズ探索支援を提供。
- ・ 医療従事者・企業・支援者が協働する強い体制。

---

## (3) 新拠点「KIBINOVE」の紹介

- ・ 5階建ての大型イノベーションラボ(2024年6月開設)。
- ・ 最新のWEB会議設備、実験ラボ(ウェット/ドライ)、交流スペース等を完備。
- ・ 見学可。

---

## (4) 提供プログラム

- ・ 基本会員(無料)、病院内探索のある包括会員の2形態。
- ・ 医療現場でのニーズ探索→コンセプト生成→製品開発まで伴走。
- ・ 「きびだんごネット」で病院ニーズを公開し企業とのマッチングを促進。

---

## (5) アカデミア間連携(高知大学との共同プログラムなど) BIZEN Device Design 研修

- ・ 医療機器開発ワークショップを開催(1週間)。
- ・ 病院現場での観察・ニーズ探索・模擬面談など実践的なプログラム。
- ・ 来年度も無料開催予定。

---

## (6) 異分野融合の推進

- ・ 医療×工学×データサイエンスなどの共同研究を推進。
- ・ 学内外の専門家と連携し、社会実装を目指す。

---

## (7) 医療機器(特にソフトウェア)開発支援の強化

- ・ データ管理、契約形態、アクセス管理など、社会実装を見据えた支援体制を整備。
- ・ ASPを活用し、研究止まりではなく製品化まで見据えた基盤を構築。

---

## 4. まとめ

- キャンパスクリエイトと BIZEN の連携により、国内外での実証・事業化の可能性が大きく広がる。
- シンガポールを中心とした ASEAN 展開が今後の重要な戦略。
- 岡山大学はニーズ起点・伴走型の医療機器開発を強化し、地域産業と協力して海外展開を視野に入れる。